

国際医療支援センター

■ スタッフ

センター長 成島三長
 副センター長 豊田秀実
 委員 櫻井洋至、岩下義明、
 張尔泉、Said Ahmad Shah
 アドバイザー 堀浩樹

■ 部門の特色

国際医療支援センターでは、2019年度において、国際的な医療講演会の開催、外国人医療者の受け入れや手術指導、全国国立大学附属病院・病院長会議の国際化ワーキングへの参加などを行いました。

■ 活動実績

1. 協定校からの海外実習生受入れ

中国・上海交通大学・2名、アラブ首長国連邦・シャルジャ大学・9名、タイ・コンケン大学・10名、タイ・タマサート大学・2名、インド・アマリタ大学・3名、イタリア・ペルージャ大学・3名、ブラジル・サンパウロ大学1名、イギリス・カーディフ大学・2名の合計・32名の海外協定大学からの交換学生の受入れを行った。



写真上：マイクロの練習風景。下：フジフィルムでのエコーのデモ風景

ペルージャ大学医学部生3名（Pietro Deleoさん、Laura Mancinelliさん、Maddalena Bianchettiさん：実習期間は2019年8月26日～9月7日）

イタリア・ペルージャ大学からの留学生3人

手術見学や外来見学および、医学部の学生への講義を通して交流を深めていただきました。ペルージャ大学では形成外科はあるのですが、研修が受けられないという事で、形成外科的な手技であるマイクロサージャリーの実習も受けていただきました。

2. 国際的な医療講演会の開催

2019年4月から講演会を行っていたがコロナウイルスによる影響もあり現在中止している。

3. 国立大学病院長会議将来像実現化WG国際化担当者会議の参加

上記会議に2019年11月18日に三重大学（於：大阪）参加した。

様々な提言の中、三重大学医学部からは、国際医療支援センター長（成島）が、人材、技術、システムのアウトバウンドに関わる提言について

（医療技術・システムの海外展開における事務・サポート体制等に関する報告）を行った。医療技術等の海外展開に係る事務をサポートする組織を設けているところは少なく、教員自らが行っているのが現状で、事務をサポートするには、語学力はもちろんであるが、医療（医療機器や薬品なども含む）や多岐にわたる関係法令（契約、知的財産・特許、安全保障輸出など）、相手国の文化や制度、医療レベルなどに関する知識・知見も必要であり、人材確保が非常に困難であることが示された。その他、訪日外国人に対応するための医療通訳等について議論が交わされた。

4. 第34回日本国際保健医療学会学術大会への参加（大会長 堀浩樹先生 医学・看護学教育センター教授）2019年12月7-8日

アドバイザーの堀教授が会長に「地域から広げる国際保健医療のひとづくり」とした学術大会を三重大学キャンパスにて開催し、参加者（ボランティア参加を含む）548名、4か国、6名（タイ、カンボジア、ザンビア、タンザニア）その他、在日外国人は全国から多数参加した。



特別講演 に・清野 宏先生（東京大学医科学研究所教授）粘膜ワクチン、粘膜免疫療法の開発に関する研究を推進し、植物外来遺伝子発現系を応用した冷蔵保存不要・注射針不要なコメ型経口ワクチンの開発について、

・天野 浩先生（名古屋大学特別教授・ノーベル賞受賞者）世界初の青色 LED に必要な高品質結晶創製技術の発明秘話と低所得国の水問題を解決する深紫外線 LED を活用した水の浄化に取り組むについて

・小川理子さん（パナソニック執行役員・ジャズピアニスト）パナソニックが太陽光による充電式の電灯「ソーラーランタン」を世界の無電化地域に寄贈する活動についておはなしいただいた。特別企画として、

- ①地域で活動する医療者による多様な国際貢献
- ②WHO - Global initiative for childhood cancer

シンポジウム／ワークショップ

- ①地域医療実践の国際展開：地域からのひとつくり
 - ②地域での在日外国人医療
 - ③Social determinants of health：地域と国際の保健医療現場での取り組み
 - ④地域住民の気づきを促し力を引き出す看護の役割と課題：
低所得国における実践経験から
 - ⑤高等教育機関における国際保健医療教育：海外から見た日本の状況
 - ⑥グローバルヘルスセキュリティに向けて：世界各国での感染症サーベイランス体制の整備と強化
 - ⑦看護師の国境を超えての移動：看護資格の多国間相互承認とその影響
- などについて発表と討論が行われた。

5. 三重県国際交流財団の三重大学関係病院長会議参加

外国人患者に対する医療通訳者の雇用促進に関する提言 三重県国際交流財団より宇藤さんにご参加いただき、約 3000 人/年ずつ増加傾向にある外国人住民の方が安心して三重県内の病院へ受診できる体制を構築するため、毎年三重国際交流財団にて開かれている医療通訳者育成研修会のご説明と受講者の雇用促進に関してのお願いを関係病院長会議にていただいた。その際三重大学医学部附属病院医療通訳者のワキモト隆子さんにも医療通訳者の重要性についてご報告いただいた。

6. 第 4 回国際臨床医学会参加（シンポジウム）

地域別に見る外国人診療への様々な取組みにおいて 三重県における外国人保険診療の現状と特殊性について発表した。内容は三重県・三重県における在留外国人の数は増加傾向にあり、50,612 人で人口に占める割合は 2.77% で全国 4 位である。

・三重県内で 9 医療機関と 1 保健センターにポルトガル語・スペイン語等の医療通訳者の配置が行われている。

・三重国際交流財団で、医療通訳育成研修が行われて医療通訳者の育成が行われている。

・三重県では在住外国人が年間約 3,000 人増加している。今後これらの方々が地域住民として安心して暮らしていける環境を整えることがまず第一歩と考える。

学会では、医療通訳士の認定についても多くの議論が交わされ 320 人の参加者があった。

7. 中国 上海大学医学部学生による、三重大学医学部附属病院視察

三重大学ともっとも古くから交流のある中国の江蘇大学より医学部の学生約 40 名が病院視察に訪問された。成島（国際医療支援センター長）による日本の医療事情に関する講演も行われた。熱心な質問が多数寄せられ、予定時間内に収まらなかったため、別途質問の時間が作られるほどであった。



上：小村氏より片山医学部長へ記念品贈呈
下：全体記念撮影

<https://www.hosp.mie-u.ac.jp/inter-med-center/>